



床ずれを早期に見分ける方法

床ずれ^{じよくそう}(褥瘡)は、ベッドや椅子などと皮膚が触れる部分で、同じ部位に強い力(圧迫)が長い時間加わることで、皮膚の血の流れが悪くなりダメージを受けて、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、傷ができたりします。

食事が十分にとれない、自分で体を動かすことができない、トイレで排泄できないなどの方々にできやすくなります。

床ずれの見分け方



床ずれがしやすい、お尻や背中、かかとの辺りで赤くなっている部分を人差し指で軽く3秒ほど圧迫する。

白っぽく変化する ▶ “床ずれではない”

赤みが消えずそのまま残っている ▶ “初期の床ずれ” (写真1)(注2)

骨が突き出した部位で赤くなっていたら、かかりつけ医、ケアマネージャー、訪問看護師などに早めに相談しましょう。



写真1

注2：褥瘡予防・管理ガイドライン第3版 CQ7.3(推奨度 C1)

引用・参考文献：日本褥瘡学会(<https://www.jspu.org/>)より

薬

やくすりに立つ！
のコラム

File.40

緩和薬物療法認定薬剤師の役割

主な役割

- がん患者が抱えるあらゆる痛みを和らげるための薬物療法の提案を行う
- 他の医療スタッフに対して薬学的視点から問題解決につながる情報を提供する



緩和薬物療法認定薬剤師とは、患者さんの痛みの緩和を専門とする薬剤師です。患者さんの痛みやその他の苦痛を改善し、患者さんが自らの人生を積極的に生きていけるように支える「緩和薬物療法」を実践します。専門性はもちろんですが、予後が限られた患者さんも多く、痛みなどの症状の中には急を要するものもあり、臨機応変に対応します。

症状評価と薬物治療提案

患者さんの身体的症状を薬学的視点から評価し、適切な薬物治療を医師に提案します。

服薬指導

医療用麻薬を中心に、患者さんに安心して薬を服用できるよう、服薬指導を行います。

副作用評価と確認

薬物の副作用を評価し、安全に薬が使用できているかを確認します。



緩和ケアチームとして、医師、看護師、薬剤師、公認心理師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどが互いに意見を出し合って、解決策を模索し、患者さんの生活の質向上に貢献します。